



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ピセンテ・ジアイ会長

◎本日の例会

7月26日/第472回例会

◎卓話

「地下都市と海上都市」

慶應義塾大学環境情報学部教授 伊藤 滋氏

◎先週報告

7月19日/第471回例会



山本 長氏

◎卓話「国際交流と空港」

前・東京国際空港公団総裁

山本 長氏

現・空港施設株式会社社長

◎青少年交換委員会(ホストファミリー鈴木委員)来日学生レイチェル帰国報告

'95年8月に来日し、青山学院高等部で勉学に勤しんでいた来日交換留学生Miss RACHEL BLASERは、1年間の留学を終えて去る7月13日(土)夜、故郷のネブラスカの小さな町、ウェインへ帰って行きました。1年間ご協力ありがとうございました。

◎国際奉仕委員会(四分一委員長)96アジア地域大会について

既にご高承の通り、96アジア地域大会が10月25日(金)~27日(日)タイ・バンコクで開催されます。地区より各クラブへ会員の10%以上の登録の要請がありましたので登録申し込みをお願い申し上げます。

◎雑誌委員会(小原健委員長)「ロータリーの友」英語版について

ロータリーの友事務所より「ロータリーの友」英語版の購入の依頼がありました。英語版の記事内容は「ロータリーの友」より海外向けにふさわしい記事を編集、転載、その他日本の文化、社会、経済及び一般事情紹介の記事が掲載されております。

海外のロータリアン、友人への贈呈、海外でのメーキャップのときに贈呈等にご活用下さい。刊行は年2回、本年度は第45号が96年11月1日、第46号が97年4月1日に刊行されます。お申込みは年2回刊行分を1口として受けさせていただきます。宜敷くお願い申し上げます。

◎親睦活動委員会報告(青野委員長)納涼会(7/27)について

浅草・駒形どぜうでの納涼会は、お陰様で予定人員をオーバーしました。もう一部屋追加するよう交渉していますが、一部の人は花火が見えないかもしれません。ご了承ください。

◎慶事披露●100%出席9年:宮本正祥君・8年:武下 朗君

◎出席報告●会員69名・出席46名・欠席23名(出席規定免除者2名)

ビジター(5名 敬称略)/山本博雅(袖ヶ浦RC)、庵 政志(世田谷中央RC)、内田和也(東京銀座RC)、植村隆安(東京日本橋西RC)、保科 正(東京南RC)



順不同・敬称略

7月19日/9件 46,000円

本年度累計 204,000円

多額のご寄付を有難うございました。

河原勢自/平井さんニコニコ御苦労様です。本日クラブ協議会御参加お願いします。
青野信次/父の葬儀について会員の方々より寄せられましたご厚情ご配慮に感謝御礼申し上げます。大日方真/先週は卓話者の松井先生のお名前が間違っって例会場に掲載されているのを見落とすという大失態を演じてしまいました。河原会長、田中先生、皆さんすみませんでした。四分一勝/平井さんがにこにこしていましたので。伊部和夫/暑い夏です、体に気を付けましょう。荒木昭文/皆様お暑うございます。7月12日会合の精算金です。加藤昌明/暑くなりました。鈴木重徳/娘がコーネル大学の大学院に行きました。平井逸夫/新年度初のニコニコ当番です。皆様のご協力に感謝して。

◎次週予告

8月2日/第473回例会

◎卓話予定 イニシエーション スピーチ

「マルチメディアのころ」

当クラブ会員 (株)プリントニクス代表取締役社長 小原 渉君

◎第2回クラブ協議会(要旨)

テーマ「創立の原点を見つめて——過去を振り返り、未来を築こう——」

ところ/東京全日空ホテル B1 八雲の間 と き/例会後13:40~15:40

開会挨拶

本年度は10周年に当たります。本年度クラブ運営のテーマを「創立の原点を見つめて——過去を振り返り、未来を築こう——」といたしました。

そろそろ一人前のクラブとして活動しなくてはならないとしたら、この10年の活動のすべてを総括し、創立の原点としての理念を再認識し、よいものを残し、新しい息吹きを吹きこんで次の5年、次の10年のための伝統や文化を創出する基礎がためをしないとしたいと思います。本年はこのテーマを基調音としてすべてのクラブ活動を進めて行ったらどうかと考え第2回クラブ協議会のテーマといたしました。活発な御意見をお願いします。

創立の原点を見つめて

(1) ロータリーの歴史と原点

ロータリークラブの歴史は、1905年、弁護士ポール・ハリスが友人に話しかけ、シカゴに交友の関係を再現したいとの願いをもって9人のチャーターメンバーによりクラブを結成したことに始まる。ポール・ハリスは2年間は役職に就かず裏方に徹したが、1907年、第3代の会長に就任。1908年1月、2人の優秀な人物、即ちキャスリー・テリーと、アーサー・ベトリック・シェルドンが加入。前者はクラブ拡大に理解を示し、後者は職業倫理の向上を説いた。間もなく、サンフランシスコ・クラブが誕生し、ロサンゼルス、オークランド、シアトルそしてニューヨークと、次々にクラブが結成された。

1910年、16クラブで全米ロータリークラブ連合会をつくり、ポールハリスはその初代会長となった。同年、国外では初めてカナダのウィニペグにロータリークラブが生まれその翌年にはイングランド、スコットランドに新クラブが結成された。

1919年、東洋で最初のロータリークラブがマニラに出来た。翌1920年(大正9年)に日本で初めての東京ロータリークラブが結成された。

1910年にシェルドンが唱えた「最もよく奉仕する者は、最もよく報われる」と、ミネアポリスの会長クラーク・コリンズが唱えた「超我的奉仕」、この2つのモットーは1911年のロータリー全米大会で採択され、ロータリーの二大標語となった。この二大標語のキー・ワード、それは「奉仕」である。

私たちにあって職業奉仕は最も根元的なつとめであるという考えに至るまでには時間がかかると思う。この奉仕という概念を職業実践の中に見出した時、今度は一般の奉仕という概念へと導かれていくのである。

(2) 当クラブ結成の経緯

親クラブである南クラブは1950年(昭和25年)に結成された。それまでは東京クラブが東京一円をテリトリーとしていたが、東京クラブは千代田区と中央区の2区だけを残して、あとは北クラブと南クラブに割譲した。南クラブは10区をもらった。

私が1984年~85年度の東京南クラブの会長をしていた時、新橋クラブ結成の動きが出、自然発生的にクラブが誕生した。たまたま、六本木アークヒルズの開発で、今度は南クラブとしては身分的なクラブを作ろうではないか、という声が出てきた。当時、南クラブは205名位の会員を擁しており、例会場が物理的に飽和状態であった。また、親睦の面からも、これ以上は好ましくなかった。

そこで内部増強の延長として外部増強の拡大と考え、身分的なもの、即ち南クラブが自然に大きくなって核分裂して新しいものが生まれるのだ、という考えで出来たのが、この新南ロータリークラブである。

1985年、私は新クラブ結成委員長を命ぜられた。

南クラブは昭和25年以来、新クラブをいくつも作ってきたが、南クラブの会員が新クラブに移籍することはなかった。新南クラブ結成のときも、当初は誰も移籍しようとは思わなかった。私が行く決心をすると、7人が集まった。そのあと、移籍希望者が次々と出てきたが、7名で打ち切った。斉藤茂之さん、村川優さんを加え、9名がチャーターメンバーとして結成の準備をした。

黒川光朝さんは南クラブの唯一の生き残りチャーターメンバーだったので、当クラブ結成の手伝いをしていただいた。そして、最終的には25名のチャーター・メンバーにより東京新南ロータリークラブが誕生したのである。

南クラブは、大らかで大人っぽい。そして自主性を大切にしている。私は、当クラブの創立総会で、当クラブに活力と創意を加えたいと申し上げたが、いまでは南クラブよりもエネルギーだと思ふ。しかし、若さゆえに失敗することもある。一番大事なことはTOLERANCE(寛容)だと思ふ。

(文責:山下)

河原会長

これまでの10年

○チャーターナイト・地区大会等の行事を経験して

吉田会員

チャーターナイトは1987年4月、地区大会は1990年3月に行われた。各々、当クラブ創立より半年後、3年半後であり、参加者は前者が約700名、後者が約3,300名とロータリークラブの行事としては、規模の大きいものであった。

いずれも、当クラブ会員以外のロータリアンが多数参加し、結果次第では当クラブの名誉となるし、汚点ともなるということで、これの成功に向けて会員全員が結集し、苦労を分かちあった。ロータリーについての知識や経験がほとんどない時点で、このような大きな行事を体験することによりロータリーに対する理解が急速に深まった事は勿論であるが、会員同志の理解と友情が深まった事が何より大きな収穫と思う。

○社会奉仕活動を通して

青野会員

資料としてこれまでの10年の社会奉仕活動の一覧表を配布した。この一覧表は過去の結果だけしか載っていない。重要なのはこの結果にたどり着くまでの汗水流した見えない部分である。調査し、見聞し、ニーズを知る努力、又ロータリー精神にのっとり、ロータリーの枠組の中で物事を運び、会員の理解、コンセンサスを得る努力こそが大切であり、当クラブの社会奉仕活動の取組み方として大事にしているように思われる。

過去を振り返り、当クラブの社会奉仕活動のエポックは2つあったように思う。1つは3年目にアイミット協会、2つ目は6年目に泉の家の手援を開始した時である。この見えない部分を大切にしたいからこそ両支援とも現在まで続いているように思われる。

社会奉仕をすることはすばらしいことである。社会の役に立つばかりでなく自己研鑽の場にもなる。プロセスを大切にすれば今後もクラブとして調和、節度、品位のある社会奉仕活動が展開されるであろうと考えます。

これからの10年

○当クラブのこれから

馬場会員

1. ロータリー運動に停滞感があるといわれる。今後「ロータリー時代」は続くのか。
2. クラブのこれからはこれまでの10年の延長にある。つぎのようなことに心掛けてはどうであろうか。
 - (1)よい点をのびし、反省すべき点があればあらためること。
 - (2)10年に育まれた中で普遍的なものは変えない、そうでないものは変革に勇気をもつこと。
 - (3)会員一人一人がロータリーの精神を身につけ、「友愛」という礎石の上に「寛容の精神」でクラブづくりをし、活動すること。

総括

河原会長

冒頭に申し上げた通り、本年度は次の10年を目指して、初心に還り、心を新たに未来を築くことをテーマにしました。本協議会では、創立の原点として東京南クラブのメンバーであり、当クラブの初代会長である田辺さんからシカゴロータリークラブの創立当初の理念、当クラブを南クラブの二階建ての子クラブとし、7名ものメンバーが移籍された事情、その理念等を解りやすく話して頂きました。

この原点から出発した当クラブのメンバーがどんな思いで、チャーターナイトを催し、地区大会と云う大仕事をやり遂げて来たのか、社会奉仕という活動を軸にして何を考え、何を感じてクラブ活動をしてきたのか、その後入会されて当クラブの活動に参加されたメンバーが何を感ぜ、何に感動し、何に疑問を感じて来たか等、大変、示唆に富む御意見を出して頂きました。

最後に馬場会員から幹事、会長を経験した立場から、もうそろそろこのクラブも次の10年に向けて一人立ち出来るような実力をつけなければいけないという辛口の御意見も頂きました。

この10年を築こうという意図のもとに行った協議会ですが短い時間の中で、このクラブ創立に努力された先輩ロータリアン方の御努力、思い入れ、この10年を各部分で支えて下さった会員諸氏の御努力により、現在の当クラブがあったのだと言うことを御認識頂けたならば幸甚に思います。この1年の基本スタンスとして行く所存です。

出席者(30名) 青野、荒木、馬場、平井、廣瀬、入沢、堀内、加藤、河原、川鍋、村川、村山、鍋島、二宮、大日方、大村、関、四分一、島田、高須、武下、田辺、田中、谷、渡邊、山川、保森、横山、吉田、吉岡(敬称略)

東京新南ロータリークラブ

会長:河原勢自 副会長:保森 登 幹事:荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

<会報委員>

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二郎、関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

(編集担当順)